

# 西原古墳群第17地点

染井 千佳

## 【西原古墳群第17地点第5次調査概要】

**所在地** 水戸市堀町字馬場東301番1, 303番1  
**調査原因** 個人住宅建設に伴う本発掘調査  
**調査期間** 平成30年7月26日～9月28日  
**調査面積** 約258m<sup>2</sup>  
**調査主体** 水戸市教育委員会（担当：染井千佳, 米川暢敬）

## 1 遺跡の概要

西原古墳群は、水戸市北西部、那珂川の支流・田野川に北面する上市台地の標高約30.0mに位置する古墳群である。同台地上の東約2kmの地点には、台渡里官衙遺跡群が存在する。

当該古墳群内では、過去にも分布調査、測量調査、発掘調査が実施してきた。

昭和26（1951）年、茨城高等学校史学部によって発掘調査が実施され、勾玉・管玉・丸玉・銅環・鉄鏃・土師器（高台付碗）等の副葬品が出土したことが報告されている（第6号墳）。平成9（1997）年には、水戸市教育委員会による分布調査が実施され、前方後円墳1基、円墳7基を擁する古墳群であると報告された。この分布調査においては、遺跡範囲内にある畠地からの蔵骨器出土が伝えられており、火葬墓群の存在も想定された。平成21（2009）年には、明治大学考古学研究室によって前方後方墳（第1号墳）、円墳（第11号墳）等が測量されている。

平成24（2012）年度には、今次調査地点の北に位置する第16地点の試掘・本発掘調査が行われ、新たに6基の埋没古墳を発見した（第15～20号墳）。この時確認された円墳2基からは埋葬施設が確認されている（第19・20号墳）。

平成27（2015）年には、今次調査地点を含む第17地点の試掘調査が行われ、複数の周溝及び埋葬施設が確認された（第17地点第1次調査）。平成28（2016）年度からは、各区画の開発計画に合わせ、第17地点東側の2区画において、本発掘調査が行われている（第2・3次調査）。この調査では、墳丘が現存する第11号墳の周溝が確認されている。

平成30年現在、包蔵地内において、延べ19地点27次の発掘調査が行われており、墳丘が削平されたものを含め、計23基の古墳からなる古墳群であると推定される（表1）。

## 2 調査の成果

### （1）第21号墳

調査区東側で確認された、周溝と埋葬施設からなる円墳である。周溝は、外縁径約9m、内縁径約7.5m（ともに残存規模）の規模である。埋葬施設は、無袖・切石積み横穴式石室を有する。玄室の奥壁は上底約60cm、下底約75cm、高さ約85cmの台形を呈する一枚石、側壁は一辺15～40cm程度の切石を3～6段積み上げる。石材は大部分が砂岩である。奥壁・樋石・羨道側壁の一部に凝灰質泥岩を用い、一部白色粘土による目張りを行う。石室底面は内法の長軸1.79～1.90m、短軸0.59～0.72mを測る。底面は5～15cm前後の円礫による礫床である。樋石の直上には人頭大の円礫が集積され、当該石室は円礫による閉塞が行われたと考えられる。また、天井石・東側側壁石材の一部を失っている。

埴輪・副葬品をはじめとする遺物の出土は確認されていない。被葬者についての手がかりは得

られていないが、築造時期は、古墳の規模、石室の形態より、7世紀代と考えられる。

## (2) 第22号墳

調査区西側で確認された遺構である。大部分が調査区外に展開する円墳と考えられるため、今次調査においては、周溝の一部が確認されるのみである。

なお今次調査区内においては、このほかにピットが8基確認されているが、いずれも時期・性格に関する手がかりは得られなかった。

## 4 まとめ

上記のとおり、今次調査においては、古墳2基・ピット8基が確認された。特に21号墳は、19号墳に続く2例目の石室調査となった。古墳の石室調査は、水戸市内においては、吉田古墳（国史跡）などの数例しかなく、大変貴重な調査事例となった。

西原古墳群においては、前方後円墳である第1号墳の築造時期がもっとも古く、4世紀代の築造と考えられている。第21号墳は古墳の形状等から7世紀代の築造と考えられ、当該地域が、墓域として3世紀にわたり使用されていたことが言える。同じ上市台地上にある台渡里官衙遺跡群と併せ、当該地域の古墳時代から古代にかけての連続性が示唆される。

西原古墳群とその周辺地域は、調査事例の蓄積により、土地利用の一端が明らかになりつつある。今次調査終了後にも、第21号墳と同程度の規模と思われる周溝が確認されている（第6次調査）。今後の更なる調査成果の蓄積を待ちたい。

## 【引用・参考文献】

- ・水戸市史編さん委員会編集『概説 水戸市史』, 1999
- ・国士館大学牛伏4号墳調査団編『牛伏4号墳の調査』1999年
- ・水戸市教育委員会編『吉田古墳1』（水戸市埋蔵文化財調査報告第6集）, 2006
- ・水戸市教育委員会編『水戸市内遺跡発掘調査報告書 平成17年度』  
(水戸市埋蔵文化財調査報告 第11集), 2007
- ・水戸市教育委員会編『水戸市内遺跡発掘調査報告書 平成18年度』  
(水戸市埋蔵文化財調査報告 第22集), 2009
- ・水戸市教育委員会編『水戸市内遺跡発掘調査報告書 平成19年度』  
(水戸市埋蔵文化財調査報告 第35集), 2010
- ・佐々木憲一・鶴見諒平・木村翔・川口武彦「調査報告茨城県水戸市西原古墳群測量調査報告」  
(明治大学文学部考古学研究室編『考古学集刊』7, 2011)
- ・茨城県教育委員会編『茨城の文化財 第52集』, 2014



写真図版1 西原古墳群第17地点第5次調査地点全景



写真図版2 西原古墳群第21号墳石室



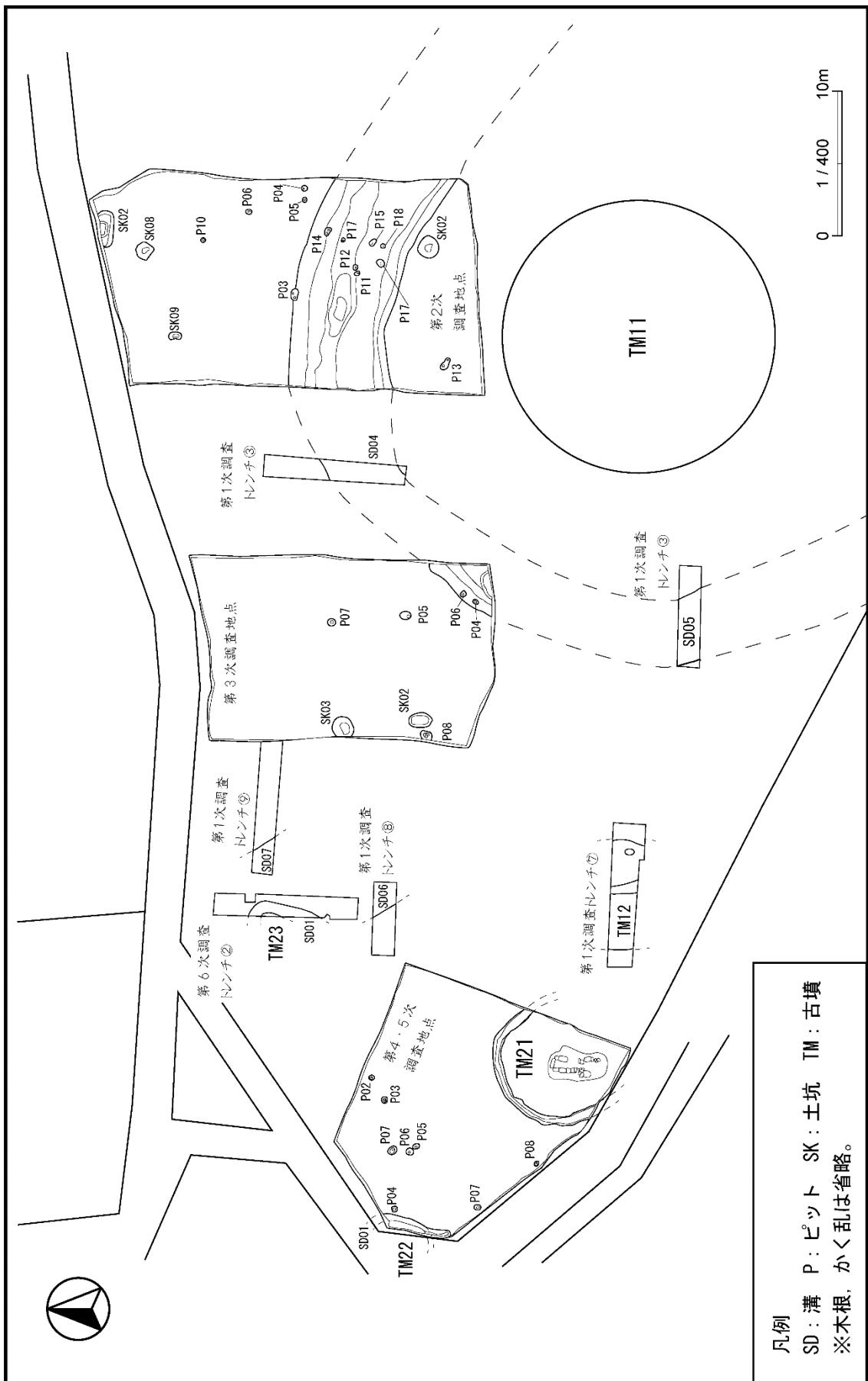
第1図 西原古墳群周辺地図

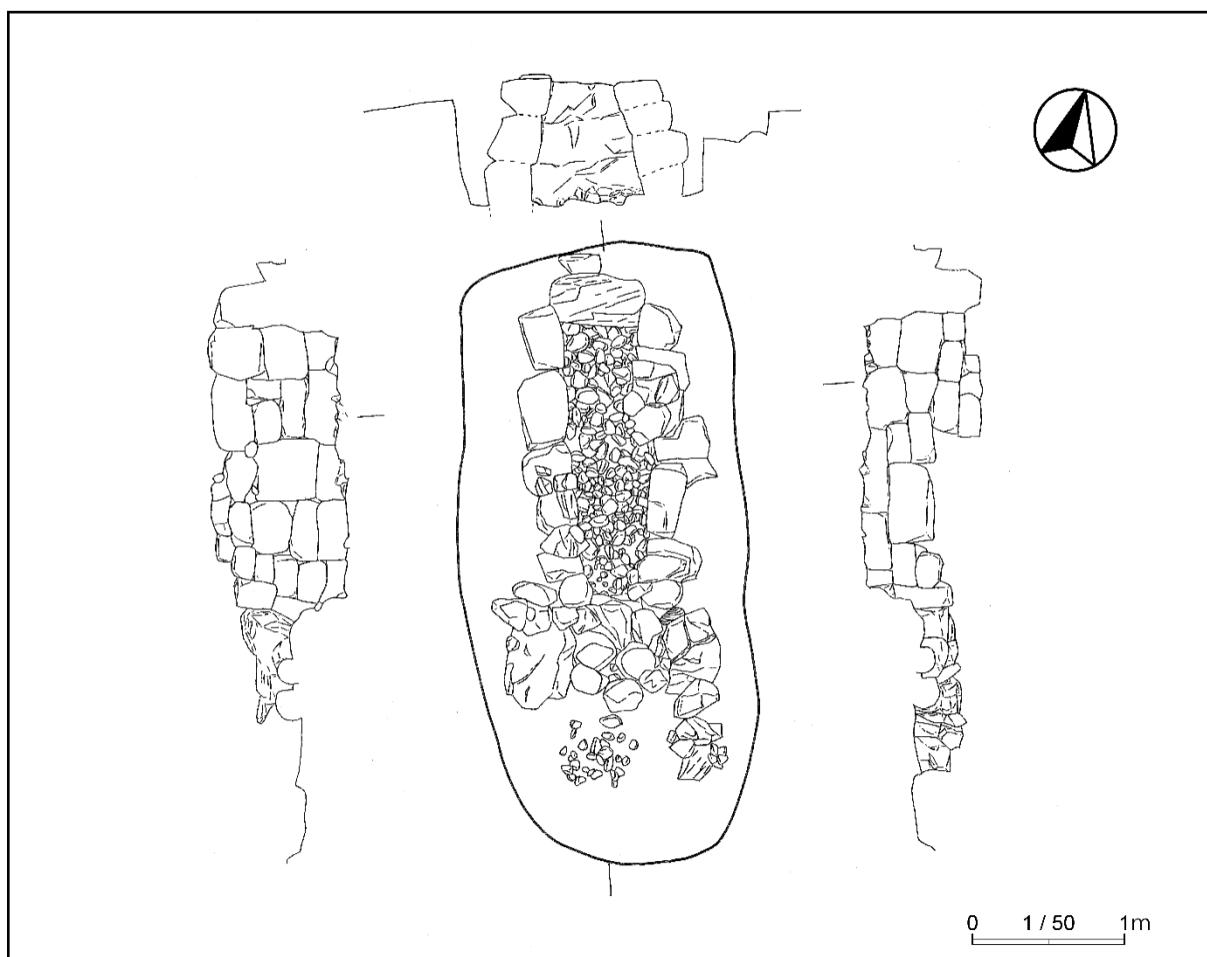
表1 西原古墳群の墳丘及び既往の調査

	墳丘	残存規模	築造時期	調査歴	備考
第1号墳	前方後方墳	長 40.0m	4世紀前葉～中葉	2011年測量調査	
第2号墳	円墳				
第3号墳	円墳				
第4号墳	円墳	17.0 m ~ 17.9m		1952年発掘調査, 2011年測量調査	周講の有無不明 ※明大調査3号墳に該当
第5号墳	(円墳)			1952年発掘調査, 2005年試掘調査	
第6号墳	(円墳)		6世紀	1952年発掘調査, 2005年試掘調査(第10地点)	勾玉・管玉・丸玉が出土, 凝灰岩の横穴式石室(1952)。周溝から円筒埴輪片が出土(2005)
第7号墳	円墳	8m	7世紀半ば以前	1952年, 2010年試掘調査(第13地点)	周溝(内径16m 外径21m)を確認(2010年)。
第8号墳	円墳				
第9号墳	円墳				
第10号墳	円墳				
第11号墳	円墳	29.0m	6世紀末～7世紀初頭	2011年測量調査	第17地点第1～3次調査にて周溝の一部を調査
第12号墳	(円墳)			2015年試掘調査(第17地点第1次)	
第13号墳	(円墳)				
第14号墳	円墳		7世紀		
第15号墳	(円墳)			2012年本発掘調査(第16地点)	周溝の調査
第16号墳	(方墳)			2012年本発掘調査(第16地点)	周溝の調査
第17号墳	(円墳)			2012年本発掘調査(第16地点)	周溝の調査
第18号墳	(円墳)			2012年本発掘調査(第16地点)	周溝の調査
第19号墳	(方墳)		7世紀後半	2012年本発掘調査(第16地点)	横穴式石室(凝灰質泥岩)
第20号墳	(円墳)			2012年本発掘調査(第16地点)	埋葬施設残存
第21号墳	(円墳)		7世紀代	2018年本発掘調査(第17地点第5次)	横穴式石室(砂岩, 一部に凝灰質泥岩)
第22号墳	(円墳)		—	2018年本発掘調査(第17地点第5次)	周溝の一部を確認
第23号墳	(方墳)			2018年試掘調査(第17地点第6次)	周溝の一部を確認

※1952年調査：茨城高等学校史学部, 2011年調査：明治大学文学部考古学研究室,

その他の調査は水戸市教育委員会による。詳細は参考文献を参照。





第3図 西原古墳群第21号墳石室実測図

茨城県央地域の主要古墳の築造時期及び参考年表

八世紀初頭		七世紀中期		六世紀中期		五世紀前半		四世紀後半		三世紀～	
●七〇一		●六四五		後半		中期～後期		終末頃		西日本において古墳の造営が始まる	
大宝律令制定		吉田古墳（元吉田町・国史跡）	ひたちなか市虎塚古墳（国史跡）	牛伏四号墳（牛伏町）	コロニー八六号墳（杉崎町）	小美玉市三昧塚古墳	愛宕山古墳（愛宕町・国史跡）	大洗町鏡塚古墳群	安戸星古墳（飯富町）	二の沢古墳群（藤井町）	
権現山横穴墓（下国井町）		大化の改新	北屋敷一号墳（大串町）	東海村船塚一号墳		ひたちなか市川子塚古墳					
			ドンドン塚古墳（鯉淵町）								